

出雲文化活用プロジェクト

手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業
— 平成30年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書 —



手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業

平成30年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書

目次

まえがき	1
平成三十年度 チラシ	2
手銭記念館所蔵資料を活用したアウトリーチ	
連続講座「古典への招待」	4
大社能を知る集い	6
料理ワークショップ	8
館外展示	10
観光分野と連携した環境整備・情報発信	
情報発信	12
和食プログラム	14
手銭記念館企画展	16
総括	21

出雲文化活用プロジェクトについて

出雲大社のほど近く、神迎の道に面して居を構える手銭家は、江戸時代前期に大社へ移り住み酒造業の傍ら御用商などさまざまな商売を営むとともに、江戸時代中期から明治維新までの間、長く大年寄、御用宿などを仰せ付かってきた。このような事情もあり手銭家には、絵画、工芸、刀剣刀装具等の美術資料と生活用具等の民俗資料、未整理の資料も含めた膨大な古典籍と文書類が残されている。

手銭記念館は、手銭家から寄贈された約五百点の美術資料を基に平成五年に開館した私立美術館で、館蔵資料および手銭家所蔵資料を利用した企画展をこれまで継続しておこなってきた。

また、島根大学法文学部山陰研究センターと手銭記念館は、平成十七年から手銭家の蔵書に関する調査を継続しておこなっており、公開可能な資料から順次、島根大学附属図書館のデジタルアーカイブ上で公開している。

このような展示と調査の過程で、記念館館蔵資料と手銭家に残されている大量の資料のいずれも、江戸中期から後期にかけての大社町に関する様々な側面を詳しく記録し伝える貴重な資料群であることが改めて分かってきた。

そこで平成二十六年、調査研究と資料の活用をより一層すすめるために、島根大学法文学部山陰研究センター、島根大学附属図書館、手銭記念館が連携して『出雲文化活用プロジェクト』を発足させた。

このプロジェクトは、江戸時代の歴史、社会、文化を研究する上で大きな意味を持つと考えられる様々な伝来資料を整理研究・解説・公開することによって、江戸時代の大社における生活文化や文芸活動などの様相を広く地域市民と共有し、また、大社町の町おこしや振興への新たな材料や付加価値を提供することを目的としている。

初年度の平成二十六年度は「文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を、平成二十七年から二十九年度までは「文化庁地域

の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、ワークショップ、他機関との連携を目的とした事業等を通じて、江戸期の出雲地方においてどのような生活文化が育まれ享受されていたかを、より多角的に公開し体験してもらおう試みに取り組んできた。

今年度(平成三十年)度は、「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、これまで継続してきた、所蔵資料を活用したワークショップと連続講座、島根大学附属図書館、島根県立古代出雲歴史博物館での館外展示を引き続きおこない、所蔵資料から見えてくる出雲の文化について、より深く、より広く知っていただくよう努めた。

また、昨年度中断した「旧家ミュージアム」事業を「観光分野と連携した環境整備、情報発信」として再開し、新たな広域連携事業の可能性を広げる試みの第一歩として、ウェブサイトを構築した。

このウェブサイトは、島根県東部にある旧家を母体とした七つのミュージアムを結んで、歴史面、観光面で新たな視点や情報を提供する外国語サイトであり、七館が連携することでアウトリーチ活動を強化していくことも目指している。「旧家ミュージアム」事業とも関連して、次年度以降、実際に観光事業とリンクさせる企画のために、これまでおこなってきた料理再現ワークショップの成果を活用した「和食プログラム」の試作をおこなった。

これまで山陰研究センターと共におこなってきた蔵書資料調査や資料解説は、継続しておこなった。

また、(公財)図書館振興財団の助成を受けて、手銭家の蔵書資料や文書資料及び本プロジェクト報告書を、クラウド型デジタルアーカイブシステムであるA D E A Cから公開する準備を進めた。

出雲文化活用プロジェクト実行委員会

公益財団法人手銭記念館

島根大学法文学部山陰研究センター

島根大学附属図書館



手銭記念館
TEZEN MUSEUM



連続講座 古典への招待

『源氏物語』を楽しむ

～和歌と屏風絵を手がかりに～(全4回)

かなの読み方、古典文学の歴史や鑑賞のこつなどを楽しく学ぶことのできる古典講座です。3回目となる今年には、館蔵の「源氏物語屏風」や江戸時代に書かれた源氏物語の注釈書「湖月抄」をテキストに、『源氏物語』について深く広く教えていただきます。

- ◎開催日時：各回 13時30分～15時30分
- 第一回 8月29日(水) 『源氏物語』とは～光源氏誕生～
- 第二回 9月28日(金) 運命の人 藤壺の宮
- 第三回 10月19日(金) 成長するヒロイン 紫の上
- 第四回 11月16日(金) 栄華の頂点へ～光源氏の達成～
- ◎場所：手銭家和室 ◎定員：各30名 ※事前の申し込みが必要で

出雲市大社町の手銭家には江戸時代の出雲文化を知る手がかりとなる資料が多く残っています。これらの資料を読み解き、活用・発信することを目的として、出雲文化活用プロジェクトが2014年に始まりました。本年も、様々なイベントを通してその魅力をお伝えしていきたいと思ひます。

出雲文化活用プロジェクト2018

- ◎参加費：1回800円(記念館入館料+資料代)
- ◎講師：野本瑠美(島根大学法文学部准教授)
- 1981年生まれ。埼玉県出身。専門は平安後期～鎌倉初期の和歌文学。東京大学大学院人文社会系研究科。日本語日本文学専門分野博士課程修了。博士(文学)。2011年島根大学に着任。

大社 能を知る集い

能と狂言の世界

～事始めから未来まで～

能や狂言が大好きな方、初めて接する方、どちらにも面白く楽しい、

ちよつと欲張りなワークショップ。

- ◎開催日時：10月8日(月・祝) 15時30分～18時
- ◎開催場所：手銭記念館
- ◎定員：30名 ※事前の申し込みが必要で
- ◎参加費：1,000円(記念館入館料を含む)
- ◎講師：安田登(能楽師 下掛空生流ワキ方)
- 奥津健太郎(能楽師 和泉流狂言方)

安田登(やすだのぼる) ◎1956年生まれ。公益社団法人能楽協会会員。米田 ROKU Institute 公認ワキ方。大学時代に中国古代哲学を学び、漢和辞典の執筆に携わる。国内外で舞台を勤めるほか、能および能の身体技法をテーマとしたワークショップ、能のメソッドを使った朗読・群読の公演や指導も行う。著書多数。



主催：出雲文化プロジェクト(公益財団法人 手銭記念館 / 島根大学附属図書館 / 島根大学法文学部山陰研究センター)
助成：平成30年度 文化庁
地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業



館外展示

さの子さん、上方を旅する〜江戸の旅事情〜

- ◎島根県立古代出雲歴史博物館 常設展示室 8月22日(水)〜10月15日(月)
- ◎島根大学附属図書館 2019年1月12日(土)〜27日(日)

料理再現ワークショップ

〜江戸の茶懐石〜

毎回好評をいただいている江戸時代の料理を再現し試食するワークショップ。今回は、当館が所蔵する不昧公の茶会記から、冬の茶懐石を選び調理します。手銭家に伝来する器もお楽しみください。

- ◎開催日：2019年2月20日(水)
- ◎集合時間：「調理からの参加」10時
「試食のみ」12時30分
- ◎開催場所：大社コミュニティセンター
- ◎参加費：2,000円(材料費)
- ◎定員：調理10名 試食20名 ※事前の申し込みが必要で、調理に参加される方でご希望の方は包丁をお持ちください。
- ◎料理指導：安藤登 (日本料理 登む)

出雲文化活用プロジェクト2018

www.tezenmuseum.com



手銭記念館企画展

- ◎刀を飾る美と技 8月8日(水)〜9月30日(日)
- ◎不昧公御流儀茶の湯展 10月6日(土)〜12月24日(月)
- ◎茶の湯の金物 2019年 1月9日(水)〜3月10日(日)

不昧公二〇〇年祭記念 お殿様落語会

- 不昧公二〇〇年祭にちなんだ落語会。不昧公がモデルとされる古典落語「目黒のさんま」などの演目を、地元出身の落語家の方々に披露いただきます。
- ◎開催日時：10月7日(日) 14時〜15時30分頃
- ◎場所：手銭家和室
- ◎演者：春雨や落雷、桂伸べえ
- ◎人数：約50名(先着順 事前予約不要)
- ◎参加費：大人600円 高校生以下400円
- 主催：不昧公二〇〇年祭記念事業推進委員会

木匠会〜時を超えた価値を求めて〜

- 常設展示室 コーナー展示
- 地元作家による共催企画
- 前期：10月6日(土)〜11月12日(月)
- 後期：11月14日(水)〜12月24日(月)

名残の茶会

- 記念館所蔵の茶器も取り混ぜ、点心、濃茶、薄茶をお楽しみいただく茶会です。
- ◎開催日時：12月8日(土)、9日(日) 詳細はお問い合わせ下さい
- 主催：公益財団法人手銭記念館



不昧公二〇〇年祭

? 参加申込み・問い合わせ

TEL/FAX: 0853-53-2000 E-mail: info@tezenmuseum.com
お名前とお電話番号、参加ご希望のイベントをお知らせください。

手銭記念館
TEZEN MUSEUM

開館時間：9:00-16:30
休館日：火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)12月25日-1月8日、展示替期間中
入館料：大人600円(500円)、高校生以下400円(300円) ※()内は20名以上の団体料金

〒699-0751 島根県出雲市大社町杵築西2450-1 電話/FAX: 0853-53-2000
E-mail: info@tezenmuseum.com



《連続講座 古典への招待》

《源氏物語を楽しむ》

開催日 八月二十九日～十一月十六日

十三時半～十五時半

講師 野本 瑠美(島根大学法文学部准教授)
会場 手銭家和室

■第一回 《八月二十九日》

『源氏物語とは』《光源氏の誕生》

参加者 三十二名

■第二回 《九月二十八日》

運命の人 藤壺の宮

参加者 三十八名

■第三回 《十月十九日》

成長するヒロイン 紫の上

参加者 三十八名

■第四回 《十一月十六日》

栄華の頂点へ《光源氏の達成》

参加者 三十五名

【使用した資料】

『湖月抄』(北村季吟著 江戸時代)

金地彩色源氏物語図屏風(土佐派 江戸時代後期)

手銭記念館と手銭家が所蔵する古典籍、古筆切、美術資料などをテキストとして活用し、館蔵資料の内容や、江戸時代の大社における文芸活動について発信することも目的とした連続講座。

三年目となる今年度は『源氏物語』に関連する資料を選んだ。



江戸時代後期、土佐派によって描かれたと考えられる「金地源氏物語図屏風」(六曲一双)には、源氏前半生―光源氏の誕生から、須磨での蟄居を乗り越え復帰し、昇進を重ね、大邸宅六条院を完成させる源氏の絶頂期まで―の中から、六つの場面が描かれている。

また、『源氏物語』の本文と註釈が併記された、北村季吟による注釈書『湖月抄』(全六十巻)には、各所に他の註釈書を写したと思われる筆者不明の書き入れがある。

今回の講座では

- 『湖月抄』の本文を用い、屏風に描かれた場面を中心に本文を読み進める
 - 『源氏物語』の中で詠まれている和歌に注目し、作者である紫式部の意図や技巧を知る
 - 和歌のやりとりから、返歌の技法を学ぶ
 - 『源氏物語』の多面的な魅力を知ってもらう
- ということを主眼におき、予習も出来るよう毎回、次回講座に該当する湖月抄のページと屏風の画像を配布した。

当時の読者にとっては、最初の一文を読んだだけで描かれている時代や政治状況などが、「○○天皇の頃よね・・・」と推測できるような、リアリティのある物語であったこと、光源氏―藤壺―紫の上という構造は光源氏の父・桐壺帝の状況と全く同じで、このような構造と人間関係の綾が幾度も繰り返されていること、同じような状況でやりとりされる和歌でも、登場人物によって用いられる言葉の選び方や表現にはっきりとした違いがあり、それぞれの年齢、教養、才気、気持ちまでもわかることなど、紫式部の作家としての技巧や技術の

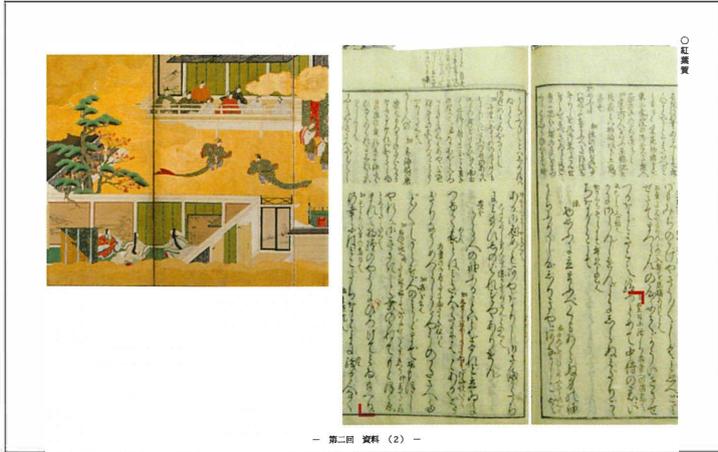


高さや深さについても丁寧に解説していただいた。

また、贈歌と返歌に不可欠な要点や技法の説明からは、平安時代の和歌がいかに高等な知的遊戯であったかがよく分かった。

今回はどの回も満員で、受講者の皆さんからは、古典講座の継続、『源氏物語』講座の継続を望む声が多かった。

『源氏物語』が千年に亘り多くの人々を魅了してきたのは、光源氏の華麗な恋愛物語であるだけでなく、知的で、社会的で、複雑な構造と多重の魅力を秘めた物語であったからだということを、理解していただけたのではないだろうか。



— 第二回 資料 (2) —



■連続講座「古典への招待～源氏物語を楽しむ～」

◇回答枚数31枚

◇参加人数(のべ)143人

Q1.どのようにして今日のイベント・ワークショップを知りましたか?					
チラシ	ウェブサイト	友人から	関係者の紹介	Facebook	その他
8	1	9	17	0	0
Q2.イベント・ワークショップはいかがでしたか?					
とても良かった	良かった	どちらともいえない	良くなかった	その他	
26	4	0	0	1	
Q3.本日の内容は理解しやすかったですか?					
よく理解できた	おおむね理解できた	どちらともいえない	一部わからなかった	理解できなかった	その他
23	7	0	0	0	0
Q4.次回以降の講座についてご希望をお聞かせ下さい					
講座について	もっと専門的な内容	おなじ程度	もっと分かりやすく	その他	
	1	29	1	0	
内容について	くずし字を読む	作品内容を深く知る	両方	その他	
	10	17	1	0	
Q5.感想、今後の企画についてご意見・ご提案など					
<ul style="list-style-type: none"> ◇学生時代の授業を思い出し懐かしかった ◇源氏物語を身近に感じる事が出来た ◇物語だけでなく、登場人物の設定や関係、現実の歴史的背景まで学ぶことが出来、楽しかった ◇一つ一つ丁寧に説明で分かりやすかった ◇小説の読み方にも色々な方法があることを知った ◇源氏物語は知っているつもりだったが、奥深さや面白さなど新たに知ることが多く、良かった ◇次回も期待している 					

《大社 能を知る集い》

能と狂言の世界へ事始めから未来までへ

開催日 十月八日(月)

十五時～十七時半

講師 安田 登(能楽師 下掛宝生流ワキ方)

奥津 健太郎(能楽師 和泉流狂言方)

会場 手銭記念館第二展示室

参加者 二十八名

現代では高尚で難解な芸能と思われがちな能楽を、江戸時代のようにもっと身近に、自由に楽しむための入り口になれば、という趣旨で行っている能楽ワークショップ。

昨年同様、休日の午後の時間帯のほうが参加していただきやすいと考えて日程を決めたが、当日は大社町をスタート地点とする駅伝大会があったため、交通規制がおこなわれ、参加者の皆さんには多少ご迷惑をおかけすることになった。初めての方、若い方など新たな参加者も多かったため、今回は

能と狂言の始まり

能面と狂言面

能・狂言の感情表現の違い―発声と所作―

といった能楽の基礎知識から始まり、能狂言それぞれの喜怒哀楽の所作や言葉は、参加者全員でやってみてみた。



そこから話は拡がり、感情と言葉の関係や、御雛子の拍子の取り方と気持ちの乗り方の違いなど、単なる基礎知識にとどまらない、日本文化の通底に共通して存在する「日本的なもの」にも触れるようなコアなお話と実演によって、幅広く刺激的な内容となった。

最後に、参加者を二つに分けて五字の言葉、七字の言葉をそれぞれ書いていただき、講師のお二人が交互に出していった七五調の詞にする、という即興の謡作りをおこない、その場で節をつけ謡って終了となった。

アンケートの感想には、ほとんどにまず「楽しかった」「面白かった」という率直な感想があり、続きを聞きたい、継続開催を望む、といった意見が続いた。

今後も、開催時間などを工夫し継続する事で、より多くの方達に参加していただく事が可能であろう。

また、さまざまな日本文化に触れたい、プロの方のお話を聞きたい、という感想も多かった。

即興の謡 (1)

オロチ退治す 明日の朝へへへ

稲佐の浜へ 楽しいな

星空ながめ 眠かった

狂言のよに 出雲路のへ打

栗の大福 能楽し

子はかすがいに 酒飲みて

彼岸花咲く 秋祭りへへへ



即興の謡 (2)

いつでも食べる 夕暮れて
面白おかし しくじった
駅伝日和 お酒飲む
我が身は悲し 膝まくら
欲しがりません 金太郎
夕影の空 明日なら
舞台立ちたい 駅伝の



アウトリーチ 大社 能を知る集い

■大社 能を知る集い

◇回答枚数25枚

◇参加人数28人

Q1.どのようにして今日のイベント・ワークショップを知りましたか？					
チラシ	ウェブサイト	友人から	関係者の紹介	Facebook	その他
4	3	10	4	0	3
Q2.イベント・ワークショップはいかがでしたか？					
とても良かった	良かった	どちらともいえない	良くなかった	その他	
19	3	0	0	0	
Q3.本日の内容は理解しやすかったですか？					
よく理解できた	おおむね理解できた	どちらともいえない	一部わからなかった	理解できなかった	その他
11	9	1	1	0	0
Q4.ご感想をお聞かせ下さい			Q5.今後どのような企画に参加したいですか		
◇一般的な話ではなく本音の話を聞くことが出来て楽しい ◇能と狂言を対比して解説され、それぞれの形や違いが良く理解できた。能・狂言がこんなに楽しいとは思わなかった ◇次回も参加したい ◇謡をやってみたくなった ◇毎年続けて欲しい ◇生の舞台を見てみたくなった			◇日本の伝統文化に関すること ◇日本の良さを学べる企画 ◇もう少し長時間、あるいは連続の能楽講座 ◇プロの話を聴く企画 ◇茶道(茶論)に関する講座		

《料理ワークショップ 江戸の料理再現》

〜冬から初春の茶懐石〜

開催日 二月二十日(水)

十時〜十四時

指導 安藤登(日本料理 登丸)

会場 大社コミュニケーションセンター

参加者 調理 十名

試食 二十九名

■ 献立

向付 鯛造り(二塩)／いり酒 わさび

岩海苔

蓋物 蠣の蕪蒸し (※追加)

椀盛 とうふしんじょ

椎茸細切

ゆば

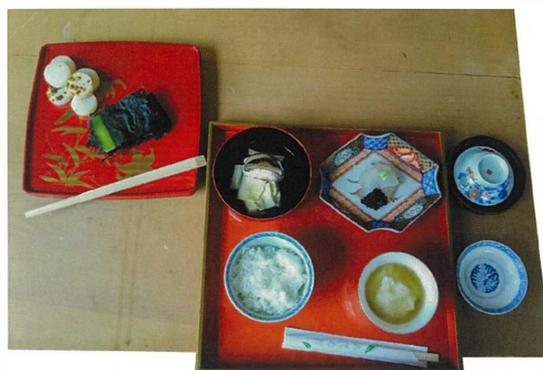
引物 たいらぎ路味噌あえ

大蒲鉾

取肴 火取りワカメ

火取り芋

香の物 かくや



は、所蔵する『大円庵様御一代御茶事記』(松江藩七代藩主松平治郷の茶会を記した江戸時代後期の茶会記)に載っている冬から初春の会記から選ぶことにした。

しかし、食材を揃えるという点でも調理の手間という点でも、一回の茶会記をそのまま再現することは難しく、色々と試行錯誤した結果、いくつかの献立から料理や食材を選び一部アレンジも加えて組み合わせる、というちよつと変則的な献立となった。

昨年と同じスタッフで、あらかじめ調理の段取りも決めて準備をし、とどこおりになく行えるだろうと考えていたが、今回は「練り味噌やへしんじょ」など、見た目や手の感触が、調理の進み具合や分量の塩梅を見極めるコツとなる場面が多かったため、全体の進行が止まってしまったり、うまく手分けしてもらうことが出来なかつたりしたのは、反省すべき点である。

試食のみの方達への、献立や料理に関する説明が足りないというご意見もいただいた。

手銭家伝来の器には、「漆器の良さを感じた」「漆器を使ってみたい」「器で料理がより引き立つことを感じた」などの意見が寄せられ、日本の伝統的な食と器の良さを体験していただくという意図が伝わったと、手応えを感じている。

今回は初参加の方、市外からの参加者が多かったが、例年と同じく家で作ってみたい、活用したい、次年度以降も継続して欲しい、また参加したいという感想が多かった。

県外から手銭記念館に来館して告知を見た方達からは、「参加したいけれど、残念・・・」という言葉も多々いただいた。

江戸時代の献立を再現することを通して、日本料理ならではの食材や調理法を伝える事、伝統的な器の良さを知っていただくこと、江戸の生活や文化に興味を持つていただくことを目的としたワークショップ。

不昧公二百年忌にあたり、県東部の各地で春から秋にかけて様々な関連事業が行われることから、料理ワークショップはそれらが一段落する冬に行い、献立



ムの準備を進めているが、その他にも様々に応用できる可能性がより見えてきた。来年度以降も継続するべき事業だと考える。



■料理再現ワークショップ

◇回答枚数22枚

◇参加人数22人

Q1.どのようにして今日のイベント・ワークショップを知りましたか？					
チラシ	ウェブサイト	友人から	関係者の紹介	Facebook	その他
4	3	10	4	0	3
Q2.イベント・ワークショップはいかがでしたか？					
とても良かった	良かった	どちらともいえない	良くなかった	その他	
19	3	0	0	0	
Q3.本日の内容は理解しやすかったですか？					
よく理解できた	おおむね理解できた	どちらともいえない	一部わからなかった	理解できなかった	その他
11	9	1	1	0	0
Q4.ご感想をお聞かせ下さい			Q5.今後どのような企画に参加したいですか		
◇家ではなかなかしないダシの取り方や刺身の切り方を知ることが出来た ◇献立に関する解説をもう少し詳しく聞きたかった ◇家でも作ってみたい			◇季節毎の懐石料理 ◇茶会 ◇出雲の歴史や文化に関すること		

《館外展示》

■ さの子さん、上方を旅する〜江戸の旅事情

プロジェクトの成果を広く公開すること、他機関の連携を深めていくことを目的とした、出張展示。

今年度は、島根県立古代出雲歴史博物館、島根大学附属図書館ともに、平成三十年初頭に手銭記念館で開催した企画展「出雲今昔Ⅱ」を基にした展示をおこなった。



安政七年（一八六〇）三月、手銭家七代の妻・さの子が出かけた伊勢・上方への六十日に及ぶ旅に関わる資料（願書、許可を得るための根回しについての記載、行程表や旅の心得、ガイドブック、お土産など）と、手銭家に宿泊した伊能忠敬に関する資料、地誌や紀行文といった旅と繋がる古典籍など、『江戸時代の旅』に関わる資料を展示した。

【主な展示作品】

手銭さの子旅行関連資料

萬日記九番へ七代白三郎妻年来之願望二而参宮いたし候事

参宮大和巡道中手引／浪花講定宿帳／大和巡りひとり案内 他

伊能忠敬関連資料

萬日記六番へ天文方御役人御宿之事／測量方引受用意書／

御用留（文化二年、文化十一年） 他

古典籍

江戸砂子／東国名勝誌／都林泉名勝図会／京都順覧記／

奥のほそ道／陸奥衝／いそ枕 他



■ 会場 島根県立古代出雲歴史博物館常設展示室展示ケース
 期間 八月二十二日〜十月十五日（入場者数 不明）

■ 会場 島根大学附属図書館企画室
 期間 二〇一九年一月十二日〜二十七日（入場者数 二五三名）



出雲文化活用プロジェクト 企画展示
江戸カ
～手銭家資料コレクション～

さの子さん、上方を旅する

（江戸の旅事情）

万延元年（一八六〇）の春
手銭家七代の子は
長年の念願であった伊勢・上方への
旅に出かけました。
手銭家の当主による「萬日記」には
六〇日に及ぶ旅の許可を得るために
おこなった手続きをはじめ
江戸時代ならではの、と思わせる
苦心ややりとりが残されています。
また、さの子が買い求めたお土産
旅の行程表や心得を書き留めた頼り
旅籠リスト、ガイドブックといった
江戸の旅事情を教えてください。
様々な資料も見つかりました。
企画展では、さの子の旅を巡る
これらの資料を中心に
江戸時代の旅に関するあれこれを
展示いたします。

島根県立古代出雲歴史
博物館常設コーナー
2018年8月22日（木）
～10月15日（月）

島根大学附属図書館
（松江キャンパス）1F
地域コミュニティラボ
2019年1月12日（月）
～1月27日（日）

主催：出雲文化活用プロジェクト
企画展示協賛：島根県立古代出雲歴史博物館 / 島根大学附属図書館 / 島根大学文学部山陰研究センター
協賛：島根県立図書館 TEL. 0853-53-3000
島根大学附属図書館 TEL. 0853-53-6067

出雲文化活用プロジェクト 手銭家所蔵資料の調査研究、複製、デジタル化を進め、その成果を公開することによって、江戸時代における出雲・松江地域の生活文化や文芸活動の理解を広く地域市民と共有することを目的として、〈公刊〉手銭家所蔵、島根大学文学部山陰研究センター、島根大学附属図書館が連携して立ち上げたプロジェクトです。2014年度から、毎年文化庁の助成を受けて事業を進めています。

館外展示

■島根大学附属図書館でのアンケート

◇回答枚数14枚

◇来場者253人

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
	1	3	1	1	4	2	2	
居住地	松江市内	県内	県外	区分	学生	職員	その他	
	11	1	1		3	6	5	
来場目的	展示	図書館利用	その他					
	7	8	0					
この企画展を何で 知りましたか？	学内掲示	HP	新聞	テレビ	知人から	その他		
	8	1	1	0	4	0		
展示内容について	大変良かった	良かった	普通	良くなかった				
	9	5	0	0				
印象に残った展示				ご意見・ご感想・今後の希望				
<ul style="list-style-type: none"> ◇ガイドブックやチラシなど現代にも通じていて興味深い ◇旅程の地図パネル（これを60日で!?) ◇旅の手続きの資料（申請書）。 ◇治療でないと旅が出来なかった点 ◇さの子さんの土産 ◇観光誌 ◇萬日記 				<ul style="list-style-type: none"> ◇江戸時代の旅が具体的にわかっておもしろかった ◇会期が短くて残念。もう少し長いとよかった ◇なかなか目に出来ない品を身近で見られて感動した ◇このような地域の資料やとりくみを紹介して欲しい ◇史料も楽しいけれど、現物が多いのがもっと見たい ◇手銭さんの定期展示。様々なテーマで紹介してほしい ◇女性が主役の展示 				

《観光分野と連携した環境整備、情報発信》

■ウェブサイトの作成

江戸から続く旧家のコレクションを保存展示している出雲エリアの美術館を海外および国内在住外国人向けに紹介する英語ウェブサイトの制作を行った。

文章 執筆：島根大学法文学部教授 小林准士

公益財団法人手銭記念館学芸員 佐々木杏里

制作・デザイン：non-standard world 株式会社

編集 集：出雲文化活用プロジェクト実行委員会

Richard & Tezen LLP

翻訳：Stephen Robertson

Richard & Tezen LLP

ウェブサイトURL <http://izumomuseums.org>

◇PCウェブサイト

トップ画面



ミュージアムページ(手銭記念館)



アクセス画面





Izumo Heritage Museums

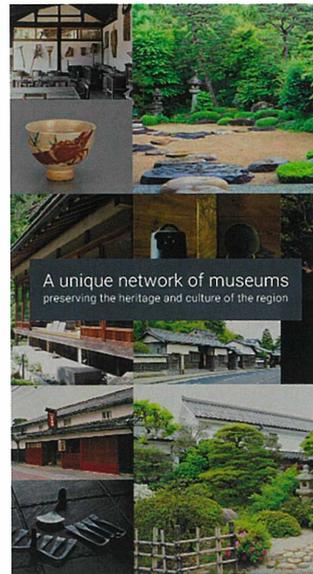
©Izumo Heritage Museums. All rights reserved.



Museums/Sites



Izumo Heritage Museums



About the Izumo Region

In the Edo period, some prosperous families led the cultural flourish of the Izumo Region. Many of their remarkable art collections, traditional residences and gardens have been preserved and are now opened to visitors.



◇モバイルウェブサイト

◇連続講座「古典への招待」

蔵の美術館 手鏡記念館 | Tezen Museum

連続講座 古典への招待(全4回)
『源氏物語』を楽しむ～和歌と屏風絵を手がかりに～
<http://www.tezenmuseum.com/news/2018/08/>

かなの読み方、古典文学の歴史や鑑賞のこつなどを楽しく学ぶことのできる古典講座です。3回目となる今年は、館蔵の『源氏物語屏風』や江戸時代に書かれた源氏物語の注釈書『湖月抄』をテキストに、『源氏物語』について深く広く教えていただきます。... もっと見る



蔵の美術館 手鏡記念館 | Tezen Museum

蔵の美術館 手鏡記念館 | Tezen Museumさんがイベントをシェアしました。

【能ワークショップ：能と狂言の世界～事始めから未来まで～】
能や狂言が大好きな方、初めて接する方、どちらにも面白く楽しい、ちょっと欲張りなワークショップ。
◆開催場所：手鏡記念館（鳥根県出雲市大社町2450-1）... もっと見る

月 2018/10/08
能と狂言の世界～事始めから未来まで～
蔵の美術館 手鏡記念館 | Tezen Museum・鳥根県 出雲市
興味あり 220人・参加予定6人

◇「大社 能を知る集い」

行った。

■SNSのターゲット広告を利用した広報

プロジェクト関連イベントの認知を上げるためにFacebookを中心に広告を行った。

■和食体験プログラムの開発

手銭家所蔵の古文書に残る、春、秋、冬(初春)、及び婚礼の料理を試作した模様を
動画、写真で記録した。

来年度以降、実際の体験プログラムを実施・広報する際の資料とする。

撮影：二〇一八年十月五日、二〇一九年三月十五日

調理：安藤登

協力：有限会社横庄かまぼこ店(祝い蒲鉾提供)

監修：出雲文化プロジェクト実行委員会

撮影：株式会社ウルトラマリ

コーディネーション：TEZEN

◇初夏の茶懐石

大円庵様御一代御茶事記(松平不昧茶会記録 手銭記念館蔵)より

向 鯛作り身 青紫蘇 いり酒

汁 蓴菜

椀盛 竹の子 ますのふわふわ

引物 若狭小鯛つけやき

【器】

向付 古染付寄向付

椀 朱地瓜螺鈿蒔絵椀

引物 不昧公好引重



◇秋の茶懐石

大円庵様御一代御茶事記(松平不昧茶会記録 手銭記念館蔵)より

向 鴨の杉焼 わさび

汁 蕪 からし

椀 牡蠣しんじょ 牛蒡 輪柚

引物 鯛細作りから和え

【器】

向付 黄地四方向付(布志名焼) 杉板・蒨の葉を敷いて

椀 糸目見返秋草蒔絵椀(四代小島漆壺斎)

引物 梅鉢文遠州好片木目縁高(堅地屋清兵衛)



◇冬から初春の茶懐石

大円庵様御一代御茶事記(松平不昧茶会記録 手銭記念館蔵)より

- 向 鯛造り 岩海苔 わさび いらり酒
- 汁 もやし からし
- 椀 豆腐しんじょ 椎茸細切 ゆば
- 引物 たいらぎ路味噌和え 大蒲鉾
- 取肴 火取りワカメ 火取り芋
- 香物 かくや 柴漬

【器】

- 向付 雲龍文鉢
- 椀 朱地絵替時絵坊主椀
- 引物 瓜形手付平鉢(永原雲永)
- 香物 伊万里色絵皿



◇祝儀の献立(婚礼)

手銭家八代婚礼記録(安政四年 手銭記念館蔵)より

- 重箱
 - 一段目 海苔巻寿司
 - 二段目 重肴
 - うど青和え 香茸白和え ほうれん草おひたし
 - 三段目 祝い蒲鉾
- 梅椀
 - 焼き鯛 白髪牛蒡 椎茸 生麩 貝割れ菜

【器】

- 重箱 梨子地桐唐草文時絵重箱
- 梅椀 朱地梅椀
- 皿 絵替色絵皿(永楽得全)



《平成三十年度企画展》

■堀江友聲と上代英彦

三月十七日～五月六日 (十四点)

江戸時代後期、同じ大東町に生まれた二人の画家、堀江友聲と上代英彦の作品を展示。

堀江友聲(一八〇二～七三)は、享和二年、島根県大原郡大東町に生まれ、後に外戚である広瀬町の堀江家を継いだ。松江で学んだ後京へ出て様々な技法を学び、郷里と行き来しながら宮津や萩などを遊歴。嘉永五年(一八五二)、広瀬藩公に招かれて藩士となり、画家として、藩からだけでなく民間からも多くの依頼を受け、沢山の作品を残した。

出雲地方の画壇では最も高名な画家の一人であり、また多くの門人も養成している。

上代英彦(二八一九～九三)は文政二年、大東町生まれ。十四歳で堀江友聲に師事して栄伯と号した。その後京に上がり、四条派の画家・岡本豊彦の門下となり英彦と改名。京都で画家として相応の評価を得ていたようだが幕末には郷里に戻り、晩年を郷里で過ごした。

二人は共に、郷土出身の画家としてこの地方で多くの人に知られ、その作品は今も大切に受け継がれている。

【展示作品】
四季花鳥図押絵貼屏風



- 百花群鳥図
- 月下乳虎図
- 鶴亀図(双幅)
- 正月風景図(双幅)
- 馬猿図
- 以上 堀江友聲
- 岩亀図
- 菖蒲兜図
- 秋草鶉図
- 松鷹図(双幅)
- 恵比寿鯛図
- 福祿寿
- 鍾馗図
- 以上 上代英彦
- 初夏風物図寄せ描
- 上代英彦 他



■不昧公が育んだ形と心

五月十二日～七月三十日 (五十三点)

松江藩七代藩主 松平治郷(号・不昧 一七五一～一八一八)の時代から不昧公百年忌の行われた大正時代まで、約百年あまりの間に、出雲地方で作られた工芸品を、茶道具を中心に展示。

出雲地方では、長岡住右衛門(楽山焼)、土屋善四郎(芳方、永原與造(いづれも布志名焼)、小林如泥(木工)、小島漆壺齋(漆工)など、不昧公の薫陶を受けた職人達の作品に始まり、その後も不昧公時代に鍛え上げられた技術や作品を見る目、製作に対する妥協しない姿勢が受け継がれ、明治、大正と時代が移り変わる中でも素晴らしい作品が生みだされてきた事を、展示作品の数々から感じていただければと企画した。

【主な展示作品】

- 不昧公坐像 池上秀畝(昭和十四年)
- 秋野棗 初代小島漆壺齋
- 交趾写柿香合 土屋雲善
- ととや茶碗 銘『さゝ浪』 出雲焼
- 仁清鷺の山写し長茶入 永原與造
- 桑細工寄木茶箱 伝小林如泥
- 撫で肩小茶入 長岡住右衛門
- 色絵唐子茶碗 長岡空齋
- 布袋像 荒川嶺雲
- 雪月花煙管 塩津親次
- 石落蒔絵硯箱 鶴原鶴羽
- 黄地色絵藤に鯉図・栗に啄木鳥図大花瓶 灘船木窯(布志名焼)
- 輪達金象嵌長火箸 梅木向月斎
- 麻の葉透桑手付煙草盆 堀越精峰



不昧公御好椿香合
不昧公百年忌記念品
草花十二ヶ月茶碗

四代小島漆壺齋
長岡空味
長岡空味 画・須磨對水
など



■ 刀を飾る美と技

八月八日～九月三十日 (七十七点)

所蔵の刀剣二十四振りと拵え、鐔、小柄、目貫、目貫を金具に転用した煙草入れなどを展示。

武士の魂とも言われる刀を守っている拵え(刀装具)には、漆工、金工、木工など、日本のあらゆる工芸技法が用いられているといっても過言ではない。

当館が所蔵する刀剣類の多くにも、江戸時代にあつらえたと思われる拵えが伴っており、合戦図、不動明王、獅子舞、ひよっとこ踊り、草花、故事など、武張ったものから滑稽なもの、可愛らしいものまでバラエティにとんだ意匠が繊細で高度な技巧によって施されている。

近年、刀剣人気が大変高まっているが、江戸の人々のこだわりと美意識にあふれた刀装具の世界も楽しんでいただきたいと企画した。

【主な展示作品】

刀 銘 兼常

刀 無銘 伝・末関

拵 黒糸目刻鞘打刀拵

鐔 赤銅葡萄に栗鼠図

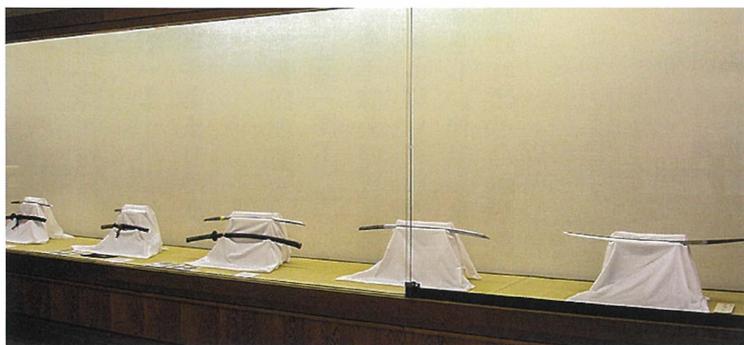
縁頭 藻柄子入道宗典

短刀 銘 来國行

拵 黒笛巻塗鞘脇指拵

縁頭・目貫・小柄拵

赤銅魚々子地金高彫龍図



脇指 銘 兼氏

拵 黒菱塗鞘脇指拵

鐔 松に鳥図 越前大掾源長常

縁頭 蘭図 永寿軒元行

脇指 銘 正宗

拵 黒呂塗勝虫図鮫研出合口拵

頭 獅子舞図 縁 波濤図

目貫 扇に金棒

小柄 唐子図

鐔 木瓜形赤銅虫尽象嵌

鐔 臙銀地色絵鶴飼図

銘 一宮越前大掾源長常花押

小柄 虫尽平象嵌

小柄 肥後象嵌桐唐草図

目貫 七剣星

目貫 芥子に鼠

獅子牡丹図金具揃い 平田春就

印籠 桜山水蒔絵印籠銘 梶川作

根付 橘中の楽

更紗地煙草入・煙管筒 金具・布袋

木綿地煙草入・煙管筒 金具・鶴

など



■不昧公御流儀茶の湯展

十月六日～十二月二十四日（九十九点）

松平不昧公は、三斎流、石州流などを学んだ後、自らの茶の湯に対する主張や研究を進め、「諸流皆我が流」という思いを自身の「茶の道」とするに至った。

その作法は、「御流儀」として受け継がれ、明治時代以降も「不昧流」として守り伝えられている。

今回の展示では、不昧流の点前の置き合わせや不昧公の御好み茶器、不昧公及び縁ある人々の書画を展示し、不昧公の茶の湯を少しでも知っていたいただければと考えた。

また、昭和初期、熱心に不昧流を学び、その後生涯に亘って茶の湯についての思索、研究を続けた手銭家十代白三郎が蒐集した、江戸時代の茶書も展示した。

【主な展示作品】

- | | |
|-------------|------|
| 寒山詩 | 松平治郷 |
| 頌古一百詩 | 松平治郷 |
| つる梅図 | 酒井抱一 |
| 桂切 | |
| 独楽庵記念の棗 | 岸一閑 |
| 不昧公御好張庫牛香合 | 原羊遊斎 |
| 蜆焼刷毛目茶碗 | 長岡空斎 |
| 真台子点前道具組 | |
| 竹台子両貴人点前道具組 | |
| 旅筭筭薄茶点前道具組 | |
| 草人木 | |
| 古織伝 | |



- 茶道便蒙集
- 喫茶養生記
- 茶話指月集
- 和漢茶誌
- 茶話真向翁
- 木芽之説
- 茶道筌蹄
- 茶話それぞれ草
- など



■茶の湯の金物

平成三十一年一月九日～三月十日(六十三点)

茶席で活躍する表舞台の道具から、ひっそりと茶席を支える縁の下の力持ちまで、茶の湯で用いられる金物たちを展示。

風炉、釜、釜を持ち上げる時に必要な環、茶事の開始を知らせる銅鑼、建水、火箸、煙管、灰の扱うための灰匙、懐石で用いる銚子など、さまざまな金属製の道具があること、サイズ、デザイン、加飾など、細部にまで心が配られているのを見ていただければと考えた。

【主な展示作品】

- 文福茶釜(「応永廿一年」銘)
- 桐紋散輪口釜(越前芦屋)
- 出雲大社神紋入万代屋釜(大西浄長 昭和十年)
- 唐物写鈎付鍋釜(名越弥五郎)
- 唐金花形風炉
- 欄干風炉
- 米螺蓋置
- 赤銅切炭香合(塩津正寿)
- 唐金馬盥水指
- 餌奮建水(中川浄益)
- 随流斎好銅水注(中川浄益)
- 銅鑼
- 黄銅十二支爛鍋(金屋五郎三郎)
- 真ノ火箸(梅木向月斎)
- 不昧公好長火箸
- 鉄丸釜弦(下間庄兵衛)
- 利休形釜釣鎖(中川浄益)



- 鐵石目環(大西浄雪)
- 不昧公好煙管
- 銅掛花入
- 古銅鶴首花入
- など



総括

平成三十年年度事業について総括する。

手銭家所蔵資料を活用したアウトリーチ事業として、ワークショップ、連続講座、館外展示をおこなった。

今年度の「古典への招待」は、例年に増して参加者からの反響も大きく、継続を望む声を多くいただいた。これは、テキストとして選んだ『源氏物語』の人気もあると思われる。

次年度、何をテキストに選ぶかが悩ましいところでもあるが、継続しておこなう事で内容が充実してきたとも言えるので、来年度も是非おこないたい。

二〇一八年は、松江藩七代藩主 松平治郷(号・不昧)の没後二百年にあたり、手銭記念館でも松江市の不昧公二百年祭実行委員会と連携して、いくつかの企画展を開催した。その効果として、県内外各地からの来館者が多く、そのおりにプロジェクトの各イベントを知って参加してくださった方が増えた。

また、今年度はSNSによるイベント告知を行ったことで、遠方の方によるサイトを經由した参加申し込みも多く、「大社 能を知る集い」、「料理ワークショップ」はどちらも出雲市以外からの参加者が半数近くになった。

今年度は、「和食プログラム」を立ち上げる準備を進め、これまでに取り上げた献立を活用して料理の試作をおこなったが、このように、「料理再現ワークショップ」は今後、より内容を充実させ、より多くの参加者を受け入れられる形を考えながら、自主事業として成り立つ方向へ進めていけるのではないだろうか。

来年以降も、ワークショップを継続しつつ、より多様な展開を考えたい。

「大社 能を知る集い」は昨年同様、開始日時を休日の午後を設定することで、参加者の年齢層も地域も広がった。

「楽しかった」、「連続講座をしてほしい」という感想が多いので、参加者を増やすことが出来れば、自主事業としておこなえる可能性は高いのではないかと。

どちらにも、新たな参加者から「知らなかった」「もっと前に知っていたなら、参加したかった」といった感想が寄せられた。不昧公二百年祭とSNSによる広報のおかげで、かなり知名度は広がったように思われるので、この効果を引き続き

持続させるような広報活動の工夫を続けていく。

アウトリーチ事業のアンケートでは、さまざまな日本文化に触れたい、プロの方のお話を聞きたい、という感想も多い。

江戸時代の大社で行われていたであろう様々な芸能や文芸をピックアップし、それらの専門家によるワークショップや講演会を開催するといった、新たな展開も考えられるのではないだろうか。

島根県立古代出雲歴史博物館、島根大学附属図書館でおこなう館外展示も継続しておこなった。この展示によって、島根県立古代出雲歴史博物館や島根大学の関係者が手銭家所蔵資料に興味を持ち、調査や企画に活用するという事例もあり、他機関との連携の拡がりを実感した。

これまで大社町内すべての小学校でおこなっていたワークショップ「能と狂言を体験してみよう！」は、今年度は諸般の事情からプロジェクトの企画から外さざるを得なくなり、いろいろ調整した結果、島根県民会館にお願いしておこなっていただけになった。各学校から出来れば継続してほしいという強い希望があり、来年度は、プロジェクトの主催で継続したいと考えている。

平成二十九年度は中断した「江戸時代から続く松江藩を支えた旧家ミュージアムの国際発信のための環境整備事業」は、今年度、「観光分野と連携した環境整備、情報発信」として再開した。

今年度は、七つの旧家ミュージアムを結んで歴史、観光の両面で新たな視点を提供する外国語ウェブサイトをたちあげた。来年度は、英語以外の言語の追加、連携した観光事業なども企画、実行しながら内容を充実させたいと考えている。所蔵資料については、今年度も個別の活動として調査研究を続けた。

文芸関係資料については各資料の解説、翻刻、研究も蓄積されており、これらの成果を発信していくために、(公財)図書館振興財団の助成事業として、手銭家の蔵書資料や文書資料及び本プロジェクト報告書を、クラウド型デジタルアーカイブシステムであるADEACから公開した。

その他の文書資料についても、調査研究と平行して資料の整理を進め、より効率よく活用していくための環境を早く整える必要を強く感じている。

手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業

—平成30年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書—

出雲文化活用プロジェクト実行委員会

会 長	手銭 白三郎	公益財団法人 手銭記念館	理事長
副会長	杉江 実郎	国立大学法人島根大学	附属図書館長
副会長	田中 則雄	国立大学法人島根大学	法文学部山陰研究センター長（法文学部教授）
理事	要木 純一	国立大学法人島根大学	法文学部山陰研究センター 山陰研究プロジェクト研究員（法文学部教授）
監事	舟本 幸福	国立大学法人島根大学	附属図書館 図書情報課長
事務局長	手銭 裕子	公益財団法人	手銭記念館 事務局長
事務局員	佐々木 杏里	公益財団法人	手銭記念館 学芸員
事務局員	昌子 喜信	国立大学法人島根大学	附属図書館 企画・整備グループリーダー

二〇一九年三月三十一日発行

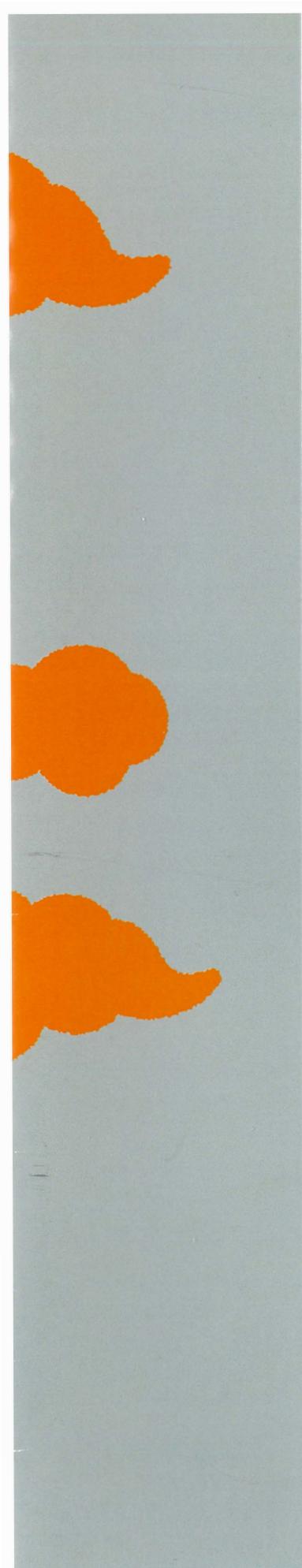
編 集：出雲文化活用プロジェクト

編集補助：連和加子（TEZEN）

総括文責：佐々木杏里（手銭記念館学芸員）

発 行：公益財団法人手銭記念館

〒六九九一〇七五 島根県出雲市大社町杵築西二四五〇—一
TEL/FAX：〇八五三一五三一〇〇〇



主催:出雲文化活用プロジェクト

公益財団法人手銭記念館
島根大学法文学部山陰研究センター
島根大学附属図書館

助成:平成30年度 文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業